

文教厚生常任委員会 活動報告

《付託議案審査》

議第 15 号 草津市立図書館設置条例の一部を改正する条例案

【 改正理由 】

令和4年7月29日に開催した「高校生と市議会議員との意見交換会」において、高校生から学習スペースの確保について意見があり、公共施設等を利用した学習スペースの設置について意見交換を行いました。

このような経過を踏まえ、令和5年7月より市立図書館において、既設の会議室を学習スペースとして活用するよう条例を改正しようとするもの。

【 改正内容に関する主な意見 】

【議員】 既設の会議室を学習スペースにするとのことだが、利便性が損なわれ、今まで使われていた頻度が減る等、市民に対して不便がないよう対応策は講じているのか。

【市】 図書館本来の機能を制限しない範囲で、貸会議室の一つを活用する。

【 審査結果 】

文教厚生常任委員会で審査を行い、「全員賛成」により本会議にて委員長より審査結果を報告し、原案が可決された。

《所管事務調査》

テーマ:「歴史・文化資源を活用した持続可能な社会の創り手を育む教育について」

【 調査する中で、浮かび上がった課題とは… 】

- ① 地域の担い手の高齢化や固定化 ② 資源的および人材的な地域差

これらの課題を解決するためのツールとして、ARやVR等の先端技術を活用した取組事例を調査するため、令和5年2月8日に、凸版印刷(株)様をお招きして、「デジタル技術を活用した地域資源(歴史・文化など)の教育活用」を演題として研修会を実施しました。

【 研修会に期待することは… 】

課題①「地域の担い手の高齢化や固定化」に関して

- ①教職員が地域の担い手が地域学習を行うにあたり、1つのツールとして活用できるデータを作成・共有し、教職員や地域の担い手の負担軽減を図る。
- ②資源をデータ化(VRやAR等)することで、子どもたちを通して、大人が知るきっかけをつくり、本市の歴史・文化資源をより知ってもらうことで、ボランティア等の人材発掘や育成につなげる。

課題②「資源的および人材的な地域差」に関して

- ①他の学区の情報も含めた市全域のデータを活用することで、地域差を解消する。
- ②先端技術を活用した地域学習を通して、子どもたちが学区に捉われることなく、草津市の歴史・文化資源に興味を持ち、郷土愛を醸成する。

【 まとめ 】

デジタルデータを活用した地域資源の教育は、①データの見える化・情報の共有。
②みんなが見れる、そして新しい情報を築き、学びを追加していける仕組みづくり。
③デジタルだけに偏るのではなく、デジタルは手法の1つとして、資産を受け継ぐ人材(語り部など)の教育。この3点が地域資源の教育において重要なポイントとなる。